

# さろま

No. 81

39. 1. 1 発行

発行人

佐呂間町長 船木長一郎

編集人

庶務課 庶務係

印刷人

佐呂間印刷

人の動き

世帯数 2,891

人口 13,952

男 7,027

女 6,925

12月末日住民登録人口



明けましておめでとうございます

町民のみなさん

ことしもよい年でありますように

静寂をついて響きわたる除夜の鐘の音、佐呂間神社の社頭には静かに降り積る粉雪を踏みしめながら老若男女の参拝者が三三、五五と集り、静かな社前で敬虔な祈りを捧げる。

参拝者の胸中には過ぎ去つた一九六三年に感謝と反省がこもり、新春一九六四年よ幸多かれと心から祈つたことであろう。

古人曰く、歳のはじめは元旦にあり、と、

歳のはじめの敬虔な祈り、それは固き誓いであり感謝と反省であろう、これほど人生に大切なものはない昭和三十九年をより豊かで幸福にすごされんことを祈念してやまない。

毎号綴じて「さろま」として下さる

# 新春を迎えて

佐呂間町長 船木長一郎



清新の氣に満ちた新春を皆様とともに迎え致しますことを心からお慶び申し上げます。

極端に神経を刺戟した昨年の農業氣象も不充分乍ら全体的に平年作に近い成果を収め得ましたことは心から幸せに存じています。更に例年のことでは御座いますが町民各位の善意により不幸な方々にも御歳暮を贈ることができました。恵まれざる御家庭のお子様方の瞬間的ではありますが感謝にもつた笑顔を見しホット致した次第で御座います。どうか一日も早く精進されまして苦境を脱していただきます様願する次第で御座います。昨年ほど年度始め以来各部落を一巡して町政及び農業をはじめとする産業振興対策について御懇談申し上げましたが、従前例を見ない程の予算規模となりましたにもかかわらず町議会、町民各位の御理解ある御支援によりまして計画が全面的に遂行されましたことは、誠に感謝に堪えません。御協力を

対し衷心より厚く御礼を申し上げます。この機会に昨年度の町政全般に亘り町民各位に内容を詳細に御説明申し上げたいと存じまして紙面を拡充して別記のとおり御報告申し上げた次第で御座います。教育行政をはじめとする財政需要のため、可成の政府資金の借入も致しておりますが、反面資料で御了解願えることと思いますが、町有の財産造りについても昭和二十七年以来計画的に実行して参りました町有林の育成も成果を収め

今や一千六百余町歩に及ぶ森林(内三百六十四余町歩は植林)が資産価値を増大し時価数億円と見込めましよう。ただ森林育成は一朝にして造成できるものではありません。長年月に亘る財政的な忍従と物を作る愛情に耐えてこそ完成できますことは、各戸において山造りをなさることと同様であります。植林地の成績も極めて良好であり数年足らずして植林地の収入も見込まれる明るい状況にあります。なおこれ等の成果は偏に町民各位の御協力と町村合併により大きな収穫でありますことを特に申し上げます。登載した紙面の関係で過去と現況については本紙の資料を充分御覧いただくこととし今後の課題につ

いて申し上げたいと存じます。教育施設の整備については高等学校の道立移管の準備も完成し、また各校の大きな補修についても一段落を致し、榮、若佐小学校等の改築まで若干の期間がありますので三十九年からは農業の構造改善事業を三ヶ年で実施をし特に町の行なう草地、牧野の造成については五千余万円の予算を以つて酪農業の基盤整備を致したい所存で御座います。

次に道路整備については交通量の多い路線からこれまた四ヶ年乃至五ヶ年計画を樹立し、奥地の道路整備に重点を指向して参りたいと考えており、また市街地においては昨年より整備致しております側溝の整備を引続き三十九年度も明るい市街地環境を作りたくと念願しております。

建築関係におきましては役場庁舎の改築も急を要することであり、出来得れば三十九年度に完成し昭和四十年の開町五十周年を迎えたいと考えております。その他中学校の統合により教育内容の充実と併せて学校給食のセンターを設置し体位の向上に努め、また社会教育施設においては既に老朽しつつあります若佐公民館を住民各位のより利便な場所に移転改築致したい。更に社会福祉施設についても青少年の健全育成と母子家庭、老人の福祉を図るために出来得る限り近い将来に児童会館施設を整備を実現致したい覚悟で御座いますので、どうか町民各位も教育並びに社会福祉の質的向上発展のため御理解を戴き御協力下さいます様お願い申し上げます。

なお園及び道自体の町内事業については、先づ若佐、端野線の産業開発道路促進であります。松田代議士の助力をいただき三十九年度より若佐からの着工もほぼ見透しを得ましたことは心から喜びにたえません。サロマ園道の改修工事を着々進捗しており更に栄市街からも確定は致しておりますが強力な政治交渉を重ねており、またサロマ湖の帆立、かき、ノリ等の採苗センター、鮭鱒のふ化事業も具体化し取敢ず三十九年度国費予算を以つて調査する段階に入りました。

極めて多難な年でありましたが、この様な情勢にあつて今後の産業経済をみるときわたくしは最近の経済好況を手ばなしで喜んでおられない多くの事実と問題が見出されるのであります。従つて町政の方針も本町経済各般に亘る体質改善と近代化に配慮し清新強力な施策を進めなければならぬと痛感いたして居ります。これが解決までには前述多難を予想され、この困難性に対する解決が今後に於ける我々に課せられた大きな課題であるかと存するものであります。

我々の携わる地方自治行政も幾多の困難と試煉の道を辿りながら町村自治の基礎確立と住民福祉の向上に微力乍らも努力致したいと思ひます。年々近代文化の向上はいちぢるしく進み従つて本町に於ける重要懸案事項も逐次増加して参りまして、その実態は必ずしも榮観は許さない現況にあります。何と申しましても町民の皆様の大なる御協力なくしては解決する事は不可能であります。私達、議会当時は議会の使命達成と町村自治の昂揚に一層の努力を傾注し住民の福祉増進に寄与するよう、当面したこれらの問題の解決に邁進したいと存じますので今後とも御指導御鞭撻を賜りますようお願いいたします。尚最後に町民の皆様も充分健康に留意され新しく迎えたこの新春を最も希望に満ちた意義ある年でありませぬ。年頭にあつて所信の一端を申し上げます。御多幸を心からお祈り申し上げます。新春のごあいさつと致します。

# 年頭の御挨拶

佐呂間町議会議長

香川嘉太郎



町民の皆様明けましておめでとうございます。

希望に輝く一九六四年の新春を皆様と共に迎えることができましたことを、心からお喜び申し上げますと共にわたくし心ながまえを新

たにして郷土佐呂間町建設に最善をつくしたい決意をしております。さて過ぎた一年間を振り返つてみますと、皆様も既に御承知の如く本町の基幹産業であります、農林水産業の振興と教育施設の充実、道路橋梁の整備と当初計画されたより以上の事業も町民の皆様方の御理解と御協力によつて、予定通りの完成をみましたことは、誠に喜びに堪えないところであります。これらの御協力に對し心から感謝の意を表するものであります。国内状況は政治的にも社会的にも

なご園及び道自体の町内事業については、先づ若佐、端野線の産業開発道路促進であります。松田代議士の助力をいただき三十九年度より若佐からの着工もほぼ見透しを得ましたことは心から喜びにたえません。サロマ園道の改修工事を着々進捗しており更に栄市街からも確定は致しておりますが強力な政治交渉を重ねており、またサロマ湖の帆立、かき、ノリ等の採苗センター、鮭鱒のふ化事業も具体化し取敢ず三十九年度国費予算を以つて調査する段階に入りました。

極めて多難な年でありましたが、この様な情勢にあつて今後の産業経済をみるときわたくしは最近の経済好況を手ばなしで喜んでおられない多くの事実と問題が見出されるのであります。従つて町政の方針も本町経済各般に亘る体質改善と近代化に配慮し清新強力な施策を進めなければならぬと痛感いたして居ります。これが解決までには前述多難を予想され、この困難性に対する解決が今後に於ける我々に課せられた大きな課題であるかと存するものであります。我々の携わる地方自治行政も幾多の困難と試煉の道を辿りながら町村自治の基礎確立と住民福祉の向上に微力乍らも努力致したいと思ひます。年々近代文化の向上はいちぢるしく進み従つて本町に於ける重要懸案事項も逐次増加して参りまして、その実態は必ずしも榮観は許さない現況にあります。何と申しましても町民の皆様の大なる御協力なくしては解決する事は不可能であります。私達、議会当時は議会の使命達成と町村自治の昂揚に一層の努力を傾注し住民の福祉増進に寄与するよう、当面したこれらの問題の解決に邁進したいと存じますので今後とも御指導御鞭撻を賜りますようお願いいたします。尚最後に町民の皆様も充分健康に留意され新しく迎えたこの新春を最も希望に満ちた意義ある年でありませぬ。年頭にあつて所信の一端を申し上げます。御多幸を心からお祈り申し上げます。新春のごあいさつと致します。

昭和三十七年度

決 算 報 告

一 般 会 計

才入 二億一千三百四十九万八千六百四十四円  
 才出 二億三百八十五万六千六百九十五円  
 残金 九百六十四万一千九百九十九円

町有林会計

才入 四千二百四十五万六千三百四十一円  
 才出 三千八百九十六万四千七百四十一円  
 残金 三百四十九万一千六百円

と 場 会 計

才入 八百八十六万七千六百四十四円  
 才出 八百五十五万九百五十七円  
 残金 三十一万六千二百七円

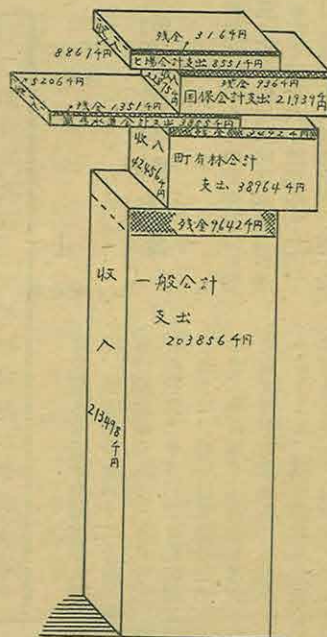
簡 易 水 道 会 計

才入 五百二十万六千五百七円  
 才出 三百八十五万五千四百七十八円  
 残金 百三十五万一千二十九円

国 民 健 康 保 険 会 計

才入 二千二百八十七万五千二百四十九円  
 才出 二千一百九十三万九千二百三十一円  
 残金 九十三万六千十八円

昭和三十七年度会計歳入歳出の構成



一 般 会 計 決 算

昭和三十七年度の一般会計決算は才入総額二億一千三百四十九万八千六百四十四円に対し、才出決算額は二億三百八十五万六千六百九十五円、差引繰越額九百六十四万一千九百九十九円となりました。

このような結果を以つて昭和三十七年度の決算を終えましたことは住民各位の御協力によるものと存じます。

まず才入総額は前記のとおりですが、住民が直接負担する町税収入、税外収入は全体の二二、五％にあたる四千八百九十二千円で、このうち、町税収入は四千七十九万三千円、それに使用料、手数料などの税外収入は七百二十九万九千円となっています。

町税の収納率につきましては現年度分九七、九％、滞納繰越分三五、六％となり、両方あわせたと昭和三十七年度の収納率は八十八％となりましたが、これを前年の三十六年度と比較しますと三、九％の上昇を示しています。

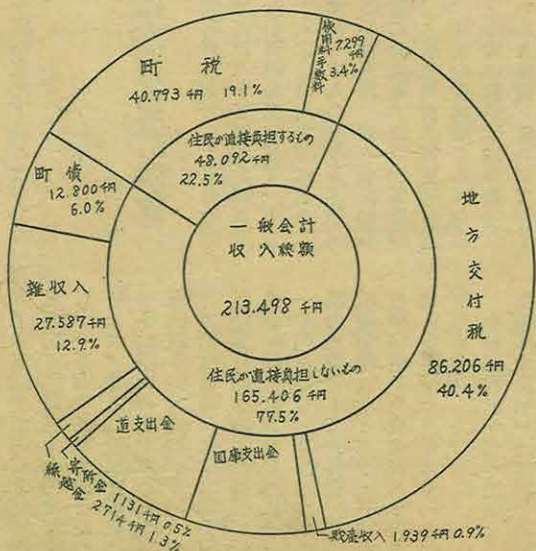
税外収入については予算策定を若干上廻る収納を見ております。町債は全体の六％にあたる一千二百八十万円で昭和三十六年度に比し八百六十万円の才入増となっていますが、この内訳は固定資産税率の引下による減収補てん債九十万円（資金運用部より）、佐呂間小学校改築事業費債七百万円（簡易保険より）、佐呂間高等学校増築費債百万円（簡易保険より）、公営住宅新設費債百二十万円（簡易保険より）、救農土木事業費債二百七十万円（資金運用部より）がそれぞれ事業費に充てるために借入致したものです。

次に才出関係であります。支出額が一番大きいものは何と云つても教育費であり総額の二七、八％にあたる五千六百五十万五千円で次が産業経済費の一、九、八％、四千四百一十千円、役場費の一、七、七％、三千六百一十二万三千円、順になつておりますが、総体の支出額を投資的なものと消費的なものに分けて見ますと、各事業、工事等に使われた所謂投資的経費は全体の三七、三％の七千五百九十六

万三千円で、その他の消費的経費は六二、七％の一億二千七百八十九万三千円となっております。投資的経費の内容は、別に登載してあります昭和三十七年度主なる事業実施状況を見ていただければお解りのとおり昭和三十七年度は佐呂間小学校の改築第一年度分や佐呂間高等学校の増築、公営住宅の新築それに三十七年七、八月の冷災害に伴う救農土木事業などが主な工事となつておりますが、その他の経費についても殆んどが教育、土木、産業関係に投資されたものであります。

次に消費的経費であります。消費的経費とは人件費、物件費、公債費などありますが、人件費は職

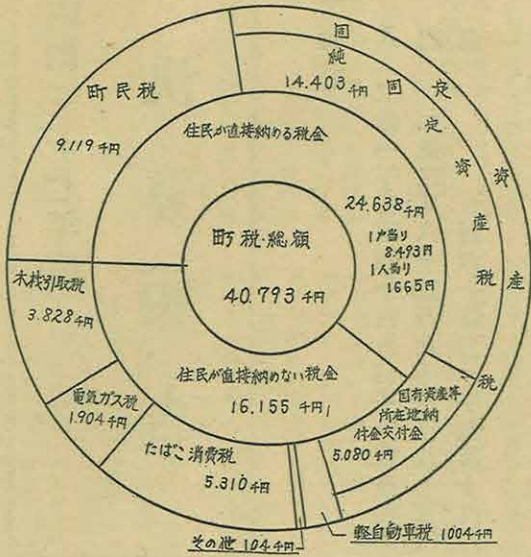
昭和37年度一般会計歳入の構成



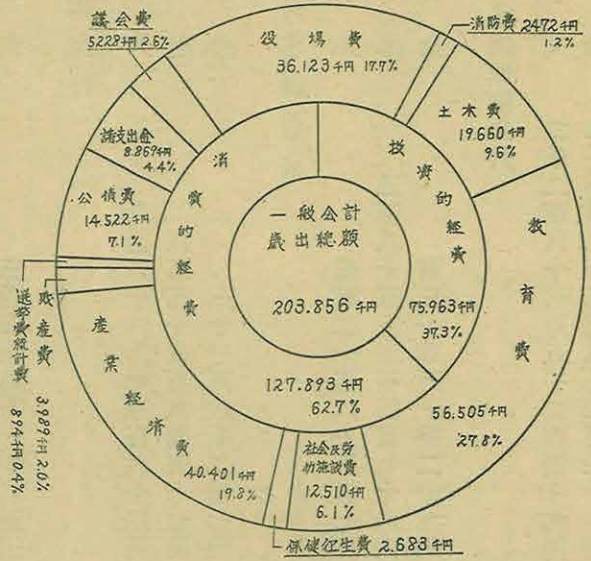
員、議員、各委員、高等学校教員その他一切の人件費ですが、この額が四千九百七十七万円で支出総額の二四、四％、物件費は三千三百二十一万二千円で一六、三％、公債費は一千四百五十二万二千円で七、一％となつておりますが、公債費はいろいろの事業を実施するために政府から借入れたお金の償還金ですから現実には消費的経費ではなく投資的な経費と云うことができましよう。

その他貸付金、出資金、扶助費、積立金などこまごまと有りますが紙面の都合上省略致しますが、支出経費の一戸当りの額または一人当りの額等については別に登載のグラフ等を御覧下さい。

昭和37年度町税収入の構成



昭和37年度一般会計歳出の構成



昭和37年度一般会計支出経費の一戸当り一人当り

区分	決算額 (千円)	一戸当り一人当り額
議会費	5,228	住民1戸当り 1,802円 / 住民1人当り 353円
役場費	36,123	住民1戸当り 12,452円 / 住民1人当り 2,441円
消防費	2,472	住民1戸当り 852円 / 住民1人当り 167円
土木費	19,660	住民1戸当り 6,777円 / 住民1人当り 1,329円
教育費	56,505	住民1戸当り 19,477円 / 住民1人当り 3,819円
小学校費	22,909	児童1人当り 11,014円 (経営費のみの場合10,194千円) 4,901円
中学校費	7,265	生徒1人当り 5,227円 ( " 7,265千円) 5,227円
高等学校費	17,985	" 42,821円 ( " 9,319千円) 22,188円
労働施設費	12,510	住民1戸当り 4,312円 / 住民1人当り 845円
衛生費	2,683	" 925円 / 住民1人当り 181円
経済費	40,401	" 13,927円 / 住民1人当り 2,730円
産業費	3,989	" 1,375円 / 住民1人当り 270円
選挙費	687	" 237円 / 住民1人当り 46円
調査費	207	" 71円 / 住民1人当り 14円
公債費	14,522	" 5,006円 / 住民1人当り 9,814円
諸支出金	8,869	" 3,057円 / 住民1人当り 599円
<b>計</b>	<b>203,856</b>	<b> " 70,271円 / 住民1人当り 13,777円</b>

町有林会計決算

普通会計のうちの町有林会計昭和三十七年度決算は才入総額四千二百四十五万六千三百四十一円、才出総額三千八百九十六万四千七百四十一円で差引繰越額三百四十九万一千六百円となりました。才入は、立木や素材の売払による

財産収入で三千七百二十九万九千九百円、道の補助金六十二万二千円、前年度の繰越金百三十三万八千八百円、雑収入三百二十万円でこれに対し、才出では、町有林管理のための人件費、物件費で三百七十七万五千円、町有林撫育事業として下刈一七〇ヘクタール、補植苗木三九五〇〇本、野そ駆除三〇一ヘクタール、天然下種補整七八、五ヘクタールなどで二百六十七万七千円、町有林植林事業として二九、四六ヘクタ

簡易水道会計決算

一戸二百二十三万二千円、林野買受代金償還金二千二百六十九万二千円、財産処分のための造搬費九百五十九万九千円が主な才出となつております。

才入総額五百二十万六千五百七十七円、才出総額三百八十五万五千四百七十八円、差引繰越額百三十五万一千二百九十九円、才入の主な水道使用料及び手数料は、才入全体の五四、八%にあたる二百八十五万四千円、水道使用料は調定額に対し九九、四%の収納率をみております。才出では簡易水道の維持管理のための人件費、物件費で百九十九万六千円、給水施設費として原材料費、工事費、人夫賃など計百六十三万九千円、水道施設起債の昭和三十七年度元利償還金百二十九万九千円となつております。

と場会計決算

佐呂間町には従前若佐と場と佐呂間簡易と場の二ヶ所がありました。が、老朽が甚だしく昭和三十七年度において新と場が町内西富に建設され、昭和三十八年一月十六

国民健康保険会計

日より事業が開始されたものであります。昭和三十七年度決算につきましては才入総額八百八十六万七千六百四十四円、才出総額八百五十五万九千五百七十七円で差引繰越金三十一万六千二百七十七円となつております。才入内訳はと場使用料及び手数料は百三十六万六千円、と場建設事業起債七百円(うち五百万円は簡易保険、二百万円は公営企業金融庫より借入)、繰越金及び一般会計よりの繰入金五十五万一千円となり、才出についてはと場管理費として人件費、物件費、維持修繕費など六十一万二千円、と場新設事業費七百八十七万七千円借入金利子十三万二千円となつております。

佐呂間町では国民健康保険制度が昭和二十六年に発足し、同年十月一日より診療給付、助産費葬祭費の給付を開始、以来今年で十三年目を迎えました。豊かで明るく楽しい生活をささげるものは何んといつても健康が第一であることは申すまでもないことであるが、不幸にして病氣にかかた場合の保障をする私達の国民健康保険について、昭和三十七年度国民健康保険会計決算からそのあらましをお知らせします。

国民健康保険被保険者一世帯当り  
保険税と療養給付費の推移

年度	被保険者 世帯数	一世帯当り 保険税額	一世帯当り 療養給付費	給付費に 対する 負担割合
26	1,630	1,563円	1,226円	127.5%
27	1,488	3,394	2,909	116.7
28	1,570	3,683	3,715	99.1
29	1,478	3,005	3,358	89.5
30	1,966	3,211	3,573	89.9
31	2,029	2,490	3,777	65.9
32	2,004	3,870	4,596	84.2
33	1,909	4,380	5,376	81.5
34	1,904	4,554	5,390	84.5
35	1,896	4,376	6,058	72.2
36	1,856	4,508	7,761	58.1
37	1,806	4,960	9,373	52.9

九千二百三十一円、差引残額九十三万六千八百八円となつておりますが、才入の主なる内訳は、被保険者が負担する国民健康保険税が、全体の四一・五%にあたる九百四十八万九千円で、この収納率は調定額に対し現年度分九四・九%の八百五十万円滞納分は二九・五%の九十八万九千円で現年度合わせて七七・一%の収納率を示しております。国庫支出金は、負担金交付金が一千六十八万九千円補助金としては保健婦設置に対する補助金など十四万円が収入されております。

才出については、役場費の人員費物件費で二百六十七万円、保険給付費は才出の七八・八%を占める一千七百二十九万一千円でその内容は被保険者が病院にかかつた場合そのかかつた医療費の五割を給付する療養給付費が一千六百八十八万六千円、助産費葬祭費給付が二十五万三千円、その他の給付費十五万二千円となつております。

保健施設費では保健婦設置に対する経費として人員費八十三万二千円、物件費十八万七千円計百一十九千円が才出の主なるものとなっております。

次にこの国民健康保険に対し、被保険者（住民）が、国民健康保険税としてどのくらい負担しているか、又病氣にかかつた被保険者に対し、どのくらいの給付を行つたか、発足した昭和二十六年より一世帯当りの保険税負担額及び給付額を次の表で示しましたが、発足当時は一世帯当りの負担額が給付額より上廻つておりましたが、昭和二十九年より遂次負担額が給付額に対し少くなり、昭和三十七年度においては実に給付額に対し被保険者の負担額は五二・九%となりました。これは国の財政措置によるものであります。

年度別の一世帯当り保険税負担額及び一世帯当りの給付額は別表のとおりです。

昭和37年度町民税中所得割 | 人当り

順位	町 村 名	一人当りの 所得割額	順位	町 村 名	一人当りの 所得割額
1	端野町	1,238円	13	津別町	749円
2	斜里町	1,101	14	東藻琴村	746
3	女満別町	1,060	15	雄武町	717
4	美幌町	1,052	16	白滝村	654
5	訓子府町	1,049	17	小清水町	610
6	常呂町	994	18	興部町	588
7	留辺蘂町	916	19	遠軽町	565
8	清里町	895	20	湧別町	517
9	丸瀬布町	845	21	西興部村	517
10	滝ノ上町	822	22	生田原町	454
11	置戸町	790	23	佐呂間町	416
12	上湧別町	759			

註本表は支庁に於て調査した個人所得割額を各町村の国勢調査人口で除したものである。

昭和37年度の主な事業実施状況

事業名	事業金額 千円	事業内容
仁倉紅葉橋架替工事	2,440	木橋
ブルトーザー購入費	1,880	第1年次支払分
ダンプ車購入費	1,731	第2年次支払分
栃木橋架替工事	2,913	融雪災害架替
救農土木事業	7,700	
佐呂間小学校改築工事	12,185	軽骨ブロック2階建 245.6坪
高等学校増築工事	8,679	木造2階建 1部平屋 194,125坪
公営住宅新築工事	7,400	第1種住宅 8戸 第2種住宅 6戸
失業対策事業	3,412	
若里船揚場新設工事	1,300	荷揚場35m 斜路18m
若佐市街舗装工事負担金	2,435	
産業関係補助金	9,365	農業、畜産、水産、商工業補助金
浜佐呂間教員住宅移築工事	518	木造平屋1棟 2戸 22.5坪
牧野改良事業	770	
土地購入	650	高校職員住宅用地 8反3畝09歩
慰霊塔新設工事	600	
土木関係維持修善費	2,086	道路橋梁の維持修善土木機械の修善費
教育関係維持修善費	4,157	教員住宅 維持修善費
その他財産関係修善維持費	1,028	



飲酒運転は事故のもと

紙面の都合上50万円以下の事業については省略をさせていただきます。

昭和三十八年度

各会計予算のあらまし

一般会計	二億五千三百三十三万八千円
町有林会計	三千九百四十七万九千円
簡易水道会計	五百十三万円
と場合会計	二百八十万円
国民健康保険会計	二千三百十九万五千円
浜佐呂間簡水会計	一千七百六十一万円

昭和三十八年度各会計予算の状況は、去る十二月十二日開会の定例第三回町議会において各会計の追加更正予算が可決され、一般会計においては二億五千三百三十三万八千円、町有林会計においては三千九百四十七万九千円、簡易水道会計は五百十三万円、と場合会計は二百八十万円、国民健康保険会計は二千三百十九万五千円となり、浜佐呂間簡易水道会計については十一月十九日開会臨時第七回町議会において特別会計設定が可決され予算額一千七百六十一万円となりました。

昭和三十八年度

事業の実施状況

前記各会計予算のなかで、投資的経費いわゆる事業費は、一般会計においては才出予算額の三四%に当る八千五百四十五万一千円が計上され、これを性質別にみますと普通建設単独事業三千九百三十二万二千円、補助事業二千八百二十万一千円、失業対策事業三百四十一万五千円、災害復旧事業百一十萬円、維持修繕費五百五十万七千円、産業振興補助費等が七百九十九万六千円となります。

これら各会計予算を当初予算と比較しますと、一般会計は三千九百八十七万六千円、町有林会計は一千八百七十三万三千円、簡易水道会計は四十一万円、と場合会計は九十九万円国民健康保険会計は五万九千円それぞれ増加となっております。つぎに各会計予算について、才入、才出の構成、税の状況、主なる事業の実施状況、などを、写真

昭和38年度一般会計才入才出現行予算 38. 12. 12

入			出		
才	予 算 額	比 率	才	予 算 額	比 率
町 税	35,482	14.1	議 会 費	6,193	2.5
地 方 交 付 税	101,975	40.6	役 場 費	39,929	15.9
公 営 企 業 収 入	7,208	2.9	消 防 費	4,462	1.8
使用料及手数料	8,466	3.4	土 木 費	18,693	7.4
国 庫 支 出 金	18,287	7.3	教 育 費	83,803	33.3
道 支 出 金	9,419	3.7	社 会 及 勞 働 施 設 費	15,220	6.1
寄 附 金	500	0.2	保 健 衛 生 費	3,054	1.2
繰 越 金	9,641	3.8	産 業 経 済 費	41,936	16.7
繰 入 金	6,725	2.7	財 産 費	3,112	1.2
債 入 債	35,035	13.9	統 計 調 査 費	225	0.1
町 債	18,600	7.4	選 挙 費	1,565	0.6
才 入 合 計	251,338		公 諸 支 出 金	15,976	6.4
			予 備 費	16,670	6.6
			才 出 合 計	251,338	0.2

三百七十四万円で、一般会計、特別会計合せて一億二千一百二十二万二千円が投資的経費として計上されています。これらの事業は一部を除きほとんどの事業が完成しました。主な事業は次のとおりです。

◎一般会計

- 浜佐呂間佐呂間望楼新設工事 五三万五千円
- 鉄骨二基 七六万六千円
- 火防井戸新設 七六万六千円
- 知来一五号橋外三橋架替工事 一〇二万八千円
- ドーザーシヨベル購入第二次分 二二三万四千円
- 小型ダンプ車購入 一〇五万円
- 佐呂間市街側溝工事 一五〇万七千円
- 吉川橋架替工事 一七九万四千円
- 知来十四号橋及び芝農道路災害復旧工事 一〇一万円
- 部屋橋架替工事 五〇万円
- 北四線藤見橋外三橋架替工事 八一万円
- ダンプ車購入二二四万円のうち第一年次分 七四万円
- 二九九号排水溝工事 五十九万一千円
- 高校校舎及び屋体新増築工事 一、五二七万六千円
- 佐呂間小学校増築工事 一、六〇九万九千円
- 佐呂間中学校特別教室増築工事 二二三万三千円
- 高校教員住宅新築工事 五一九万二千元

昭和三十八年度

町税の内訳

町の基本的収入ともいえるべき町税につきましては才入予算のうち三千五百四十八万二千円が見込まれていますが、この内訳は住民が直接納入する町民税、固定資産税、軽自動車税が二千九十一万六千円で町税予算額の五九%にあたり、のこりの国有資産等所在市町村交付金納付金、たばこ消費税、電気ガス税、木材引取税などの間接税や特定な人に課税されるものが一千四百五十六万六千円となっております。

(単位千円)

町民税	7,152
固定資産税	17,919
軽自動車税	907
たばこ消費税	5,068
電気ガス引取税	1,815
木材引取税	2,593
その他	10
計	35,482

昭和38年度町税の内訳

住民に直接課税されるもの20,916千円で  
1戸当り 7,209円 1人当り 1,413円

町民税	固定資産税 (50.5%)		たばこ消費税	電気ガス引取税	本税引取税
	20.2%	36.2%			
	14.3%	2.8%	14.3%	5%	7.3%

若佐中学校水道新設工事 六五万二千元

高校附属施設工事 五十四万六千円

若佐富士教員住宅改築工事 五十七万円

失業対策事業 三四一万五千円

公営住宅新築工事 第一種六戸第二種八戸 七五九万円

愛の鐘建設費 五〇万円

保育所新設工事 一三〇万円

牧野改良工事 九三万八千円

共済住宅建設工事 一〇〇万円

◎町有林会計

町有林撫育事業 二二九万六千円

町有林植林事業 一七〇万一千円

林野買受償還金 一、七一六万四千円

◎と場合会計

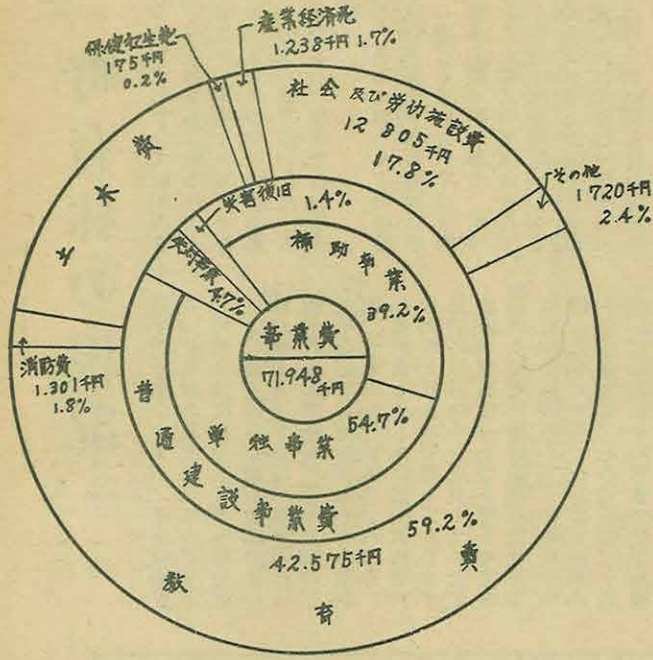
給水施設工事外 二四万円

肉室新築工事 三三万円

◎水道会計

浜佐呂間簡易水道施設工事 一、三三三万円

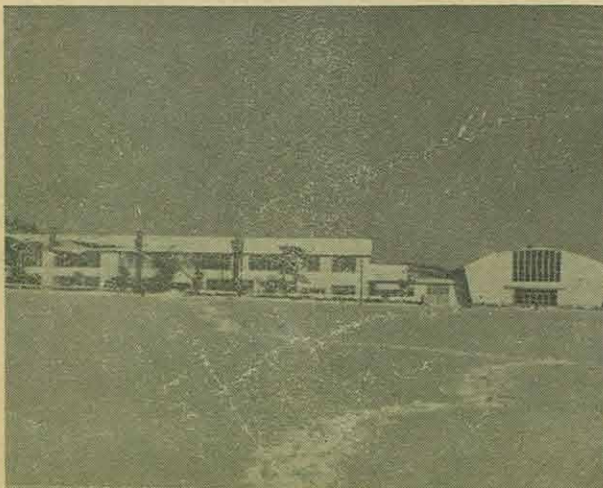
昭和37年度決算 比較図  
昭和38年度現行予算



佐呂間小学校改築  
昭和38年10月31日完成



佐呂間高等学校々舎及屋体新增築  
昭和38年10月31日完成



昭和三十八年度一般会計建設事業費目別予算

251,338千円		251,338千円	
その他	二四、七四〇千円	その他	一六、六〇〇千円
債権	一八、六〇〇千円	債権	一八、六〇〇千円
町債	一三、八〇〇千円	町債	一三、八〇〇千円
債権収入	三、五〇〇千円	債権収入	三、五〇〇千円
国庫支出金	二七、七〇〇千円	国庫支出金	二七、七〇〇千円
国庫支出金	三三、二九〇千円	国庫支出金	三三、二九〇千円
使用料手数料	八、二六〇千円	使用料手数料	八、二六〇千円
使用料手数料	八、二六〇千円	使用料手数料	八、二六〇千円
地方交付税	一、一九七、五〇〇千円	地方交付税	一、一九七、五〇〇千円
町税	四、七九三、三〇〇千円	町税	四、七九三、三〇〇千円
町税	三、五四八、二〇〇千円	町税	三、五四八、二〇〇千円
歳入	251,338千円	歳入	251,338千円
昭和三十七年度	251,338千円	昭和三十七年度	251,338千円
昭和三十八年度	251,338千円	昭和三十八年度	251,338千円
昭和三十七年度	251,338千円	昭和三十七年度	251,338千円
昭和三十八年度	251,338千円	昭和三十八年度	251,338千円

つぎの図は昭和三十七年度決算と昭和三十八年度現行予算の款別の比較ですが歳入では地方交付税が増額されているのと、その他の収入が特に増えていることですが、このその他の収入の内容は前年度繰越金や町有林会計繰入金、財産繰入金です。また歳出では特に教育費が増えています。これは高等学校増築、佐呂間小学校改築、高等学校経営費等の増加によるものです。

# 町有林の現況

町有林の現況については現在までに二、三度お知らせ致したこともありませんが、詳細なお知らせを致しておりませんので今回は出来る限り皆様が御了解いただける様図面も登載して現況をお知らせ致します。

現在町で所有しております山林の総面積は昭和三十一年の町村合併以前から所有していた一千二百四十七町四反六畝の町有林と、町村合併したことによつて国から八千六百三十万円の買受価格をもつて私下処分を受けました五百十五町七反五畝の山林で合計一千七百六十三町二反一畝の町有林を現在所有している訳であります。この経営については過去五年間に亘り国から買受けました町有林買受代金償還と主なる建設事業に充てるため、新町分町有林四百二十一町からは十万余石の材を採伐又は皆伐又は皆伐により採伐し又旧町分町有林に六百八十三町から十二万余石の材をこれまた採伐又は皆伐により採伐致しておりますが、この伐採及び伐採方法については、あくまでも経営計画に基づいて経営し山火跡再成林や広葉樹粗悪二次林の如き今後においては生長率の悪い箇所については林質の改善を主眼として皆伐方式を採用して人工造林を行うようにしておりますが、その他の地区においては採伐方式を採用し伐採跡地については天然下種補整事業などを行い残存林の育成に努める様に致しております。町村合併に伴い国から私下処分を受けました町有林の買受代金も昭和三十八年度を以つて償還が完了

致す訳であります。その結果現在の町有林の現況を見ますと新町買受分町有林五百十五町七反五畝の現在推計蓄積石数は針葉樹林が約十万余石、広葉樹林は約十六万四千余石、合計二十六万五千余石の蓄積を有し、その他昭和二十五年から昭和三十一年までに植林致しました針葉樹植林地六十九町九反九畝を有しております。又旧町村当時から所有していた町有林の現況は一千二百四十七町四反六畝で現在推計蓄積石数は針葉樹林が約四万九千石、広葉樹林は約十八万九千石、合計二十三万八千余石を有し、その他昭和二十八年から昭和三十一年までに植林致しました針葉樹植林地二百六十一町九反三畝と広葉樹植林地二十一町六反四畝合計二百八十三町五反七畝の植林地があります。新町分町有林の町有林全部を合計しますと面積は一千七百六十三町二反一畝で現在推計蓄積石数は針葉樹林が約十五万石、広葉樹林が三十五万三千余石合計五十万三千余石を有し、また植林地はトドマツ、カラマツ等の針葉樹植林地が三百三十一町九反二畝、広葉樹林が二十一町六反四畝で合計三百五十三町五反六畝を植林してあり成育状況も極めて良好でありますので数年たらずして収入も見込める現況にあります。

これ等の町有林は町の最大の財産でありまた町の最大の財源でもありますので今後一層造成に努めたいと存じますので町民の皆様の一層の御協力をお願い致します。なお地区別に詳細にお解りいただくために地区別町有林の現況を別に登載しましたので御覧下さい。

(新町有林) 地区別町有林の現況

林班名	所 在 面 積	推 計 蓄 積 石 数			う ち 植 林 面 積			植 林 年 度
		針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	
1	川 西 450	6450	20,124石	20,333石	40,457石			
2	"	9834	2,902	45,900	48,802	367	367	32年~35年
3	北 442	4269	9,493	13,597	23,090			
4	"	7732	16,880	11,779	28,659	3173	3173	25 ~31
5	"	6988	14,328	11,761	26,089	2369	2369	28 ~32
6	"	13909	35,842	51,138	86,980	1090	1090	26 ~38
7	知 来 913	987	104	4,925	5,029			
8	"	1406	1,408	4,975	9,383			
計		51575	101,081	164,408	265,489	6999	6999	

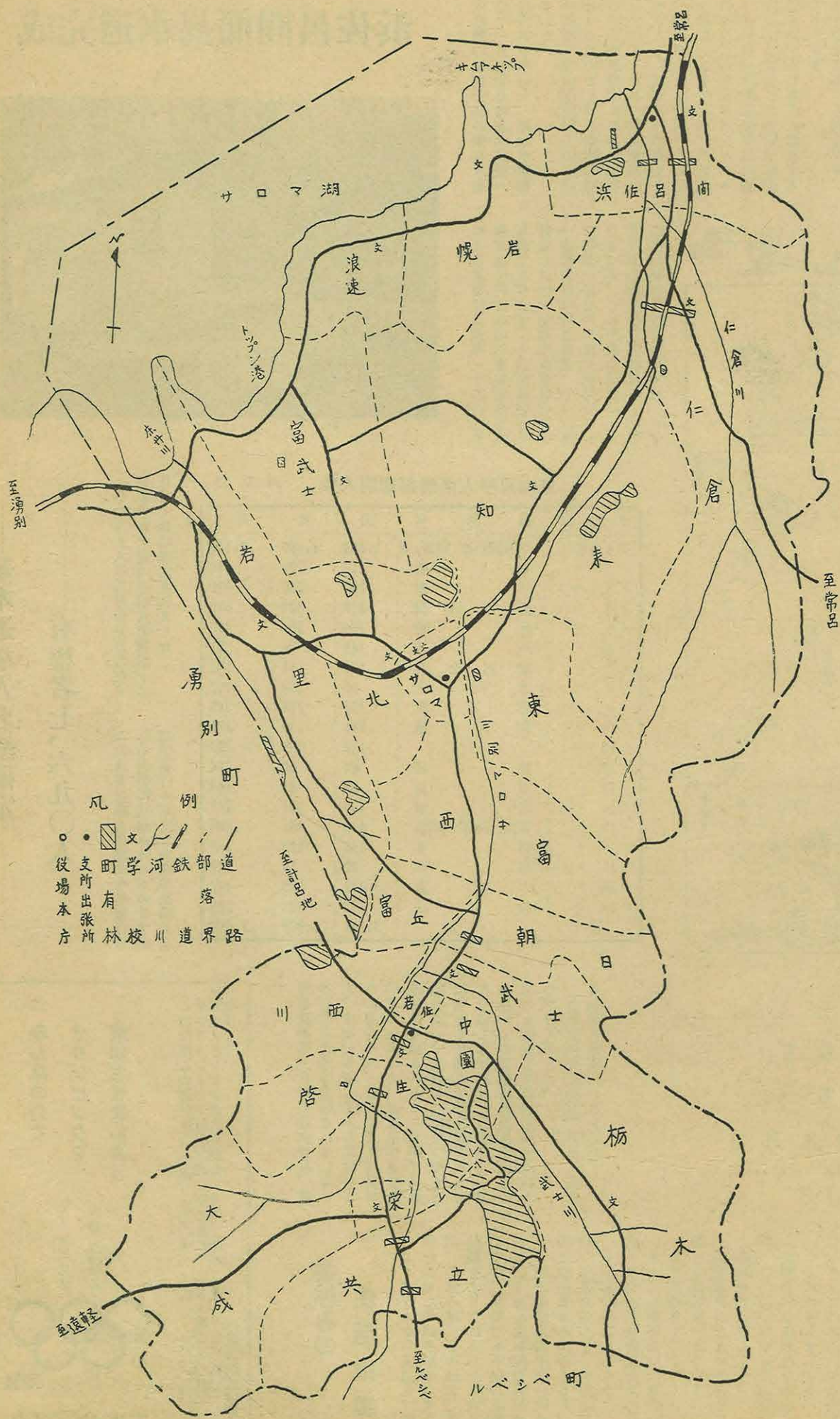
(旧町村からの町有林)

1	浜佐呂間 672	10311				9254		9254	30 ~34
2	" 181外4筆 仁倉 5外18筆 知来 13.14.15	4073		2,538	2,538	2954	200	3154	30 ~37
3	知来470外4筆	4686				2142	1646	3788	35 ~38
4	富士 262 若里 411.467	2883							
5	北 18	6302	403	1,613	2,016	1774		1774	27 ~33
6	若 里 806	4763		2,750	2,750	1765		1765	29
7	若 里 866	7307	6,473	17,734	24,207				
8	富 丘 305の2 朝 日 44 川 西 8 武 士 30.215 中 園 40 東117	4336		8,914	8,914	951	318	1269	28 ~34
9	大成 57 啓生192 共立 79 700	1256		2,009	2,009				
10	共 立 767	9292	5,598	22,392	27,990	412		412	32
11	"	10801	9,997	22,000	31,997	060		060	32
12	"	7894	13,003	12,668	25,671	076		076	32
13	啓生 220 193	13832	10,868	25,358	36,226				
14	啓生220中園135	11624		28,012	28,012	1248		1248	33 ~35
15	中 園 431	15196	2,430	24,937	27,367	5119		5119	28 ~38
16	栃 木 299	10190		18,292	18,292	438		438	37
計		1,24746	48,772	189,217	237,989	26193	2164	28357	
合計		1,76321	149,853	353,625	503,478	33192	2164	35356	



佐呂間町有林位置図

常呂町



# 浜佐呂間簡易水道完成



(完成した水源池)

浜佐呂間に住民待望の簡易水道が完成十一月三十日に通水式翌一日に落成式を挙行し、給水が開始されました。

この地域一帯は泥炭質の上のため飲料水は勿論のこと、水産物の加工や日常の家庭用水にも不自由をかさねてきました。地元期成会の設立とともに綿密なる調査をかさね、昭和三十八年七月一日に待望の水道施設工事に着手、水源池を市街より二軒南方のイワケシエオマナイ川に設け動力で町道川沿道路附近に設置されたる過池に押し上げ配水池を経て各戸に給水するものであります。

## 北の一家



により工事請負金額一千二百五十万二千円でこの工事を完成したものであります。ろ過池は容量七五屯を二池、配水池は容量七五屯一池配水管は総延長三、七三六米で現在一五二戸の給水を行っておりますが、この工事の完成により飲料水の問題が一挙に解決各家庭の主婦たちから喜ばれております

基本選挙人名簿部落別人数 38. 9. 15

投票区	部落名	男	女	計
第1投票区	佐呂間市街, 西富, 東	1,044	1,105	2,149
" 2 "	来倉	212	228	440
" 3 "	知仁	209	230	439
" 4 "	佐呂間	327	328	655
" 5 "	岩速	106	101	207
" 6 "	浪速	43	38	81
" 7 "	武士	100	91	191
" 8 "	富武	99	108	207
" 9 "	若里	133	116	249
" 10 "	朝富	141	150	291
" 11 "	北	120	133	253
" 12 "	日丘	64	60	124
" 13 "	朝富	81	83	164
" 14 "	武若	128	121	249
" 15 "	中園, 川西	419	461	880
" 16 "	木生	136	129	265
" 17 "	柴立	70	59	129
" 18 "	成	217	225	442
" 19 "	大共	132	143	275
計		3,781	3,909	7,690

昭和三十八年九月十五日現在で調整された基本選挙人名簿が十二月二十日に確定されました。選挙執行の都度この基本選挙人名簿は今後執行される選挙に使用されるものですが選挙執行の都度この基本選挙人名簿は今後執行される選挙に使用されるものですが

## 基本選挙人名簿確定

### 有権者七、六九〇人

「広報「さるま」は町政のいろ／＼なことを知っていただくため毎月一回発行し、自治会長を通じて全世帯に配付しております。みなさまの御意見や質問は庶務課庶務係へ、お寄せ下さい。

☆ みんなの力で  
オリンピックを  
成功させましょう

オリンピック  
協賛たばこ

(GOC62-E-0142)  
オリンピックを  
どうぞ

このたばこの寄付金(予定額三億円)は、東京オリンピック資金財団へ納められ、東京オリンピック大会開催基金の一部となります。

佐呂間  
日本専売公社北見出張所  
北見たばこ組合  
(佐呂間若佐地区)

簿のほか補充名簿が作成され、基本選挙人名簿に登録されていない人、すなわち新しく本町に住むようになった人、成人を迎えて満二〇才になった人、或は基本選挙人名簿に登録されるべき人が、何かの手違いで登録もれになった人達は新しく申請して補充選挙人名簿に登録しなければなりませんのであらかじめ選挙管理委員会にある名簿を閲覧して登録もれがないかがけて下さい。

### 冬休みの生活指導

クリスマスから正月と、楽しく夢をのせた冬休みがやってきました。冬休みは、春の進学、進級、就職をすく先にひかえた大切な時期です。家庭でも子供の生活指導にはとくに心をお配りの事でしょう。その生活指導上の心構えを次のようにまとめてみました。

- ◎ 休みを楽しく、子供中心の明るい家庭にしましょう。
- ◎ 子供の生活時間を中心に、親としても秩序だった生活を築くよう努めましょう。
- ◎ 冬の健康、とくにうがいや保温交通事故などに注意し、戸外運動をさせましょう。
- ◎ 小づかい帳や日記のつけ方、良書を読み楽しみなども、じゅうぶん指導しましょう。
- ◎ テレビはみんなで相談し、決めただけ見たら、あつさり切りあける自立的態度を養いましょう。家中で感想を話し合つて見る事もたいせつです。

## みんなで 明るい お正月を